

令和6年度事業報告

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

全体概要

I 概要

令和6年度は、コロナウイルス感染症の影響もなくなり、人の流れがコロナ前を超えてくるなど、社会経済情勢も大きく飛躍した年であった。

特にわが国においては、円安の影響も受け訪日外国人客数もコロナ前の2019年を超え、2024年は3,687万人と過去最高となった。また、京都で開催された国際会議についても、3年連続で前年を上回った。このような状況の中、京都では、一部の時期・時間・場所へ観光客が集中することによる地域住民への影響や観光業界の担い手不足が課題となり、関係者が連携して観光客の分散化やマナー啓発及び人材確保等に取り組んできた。

当財団においても、MICE開催に際して開催時期や見学先などのコントロールにより、分散化に努めるなど、行政や関係機関と協力して課題解決に向けた取組を進めてきた。

また、文化庁京都移転を受け、文化庁及び国民文化祭等と連携した古典の日推進事業や、京都らしいMICE開催支援等を通じ、文化と観光・経済の好循環創出に努めた。

さらに、大阪・関西万博開催に向けたオール京都の取組に参画するなど、国際的な文化交流拠点・京都の魅力向上と持続的発展への寄与を図った。

以下重点施策ごとに令和6年度の取組状況をまとめた。

II 4つの重点施策別の取組状況

1 古典の日推進事業の充実

令和6年度は、古典の日推進委員会発足から15年となる年で、紫式部を主人公にした大河ドラマの放送もあり、「古典の日フォーラム」「朗読コンテスト」「街かど古典カフェ」の各事業において、紫式部や源氏物語など平安時代をテーマとした構成とし「古典の日」の啓発に努めた。「朗読コンテスト」で

は初めてクラウドファンディングを実施し目標を達成するとともに情報発信にもつなげた。ポッドキャストで源氏物語の解説と朗読のコンテンツ配信を進めるとともにホームページに英語の解説文を掲載するなど外国の方を意識した対応も進めた。「古典の日フォーラム」は文化庁との共催、国民文化祭開催県との連携も3年目となったほか、当財団以外の主催の「古典の日フォーラム」が名古屋において2年続けて開催されるなど全国展開の活動を着実に進めた。

第4回となる「古典の日文化基金賞」事業では、「文学・思想」「伝統芸能・音楽」「美術・生活文化」の分野で3団体を、「古典の日文化基金未来賞」は、次代の日本文化を担う若者たちの2団体と1個人を顕彰した。

2 MICE・国際観光を通じた京都経済への貢献

国際会議などMICEの回復と持続可能な開催に向け、海外プロモーション活動としては、フランクフルトでの「IMEX Frankfurt 2024」に京都ブースを出展するとともに、昨年度に続きバルセロナでの「IBTM World 2024」、メルボルンでのMICE商談会「AIMEX 2025」にも出展し、各々京都での開催につながるPRや商談を行った。国内では関西近辺の大学訪問などを重ねて主催者への働きかけを強め、16件の大型国際会議誘致に成功した他、世界的なMICEメディアと連携した商談会の開催を継続するなど、着実に誘致活動を充実させてきた。

これまでの誘致・開催支援の取組が評価され、アジア最大級のMICEメディア「M&C ASIA」が主催する表彰プログラム「M&C Asia Stella Awards 2024」において、京都市が都市単位では日本で初めて「Best Incentive City(Asia)」として選出され、受賞した。

地域貢献としては、国際昆虫学会議において、環境学習に取り組む伏見区内の3施設（青少年科学センター・京エコロジーセンター・さすてな京都）と当財団・主催者が連携し、環境の保全・生物多様性に関する市民対象のイベントを実施し学習機会を創出した。またSTSフォーラムにおいては、地元企業や学生と参加者の交流機会の創出や市民公開講座の実施による最新知見の共有、地産地消などのモデル事例を創出した。その他「サステナブルなMICE開催支援補助制度」を活用し、環境対応と併せて、市民公開講座の実施や、学生の国際会議参加を促し「大学のまち京都」の強みを活かす人材育成を図った。

また、第21回STSフォーラム、京都スマートシティエキスポ2024への運営協力をはじめ、京都ならではの企業ミーティングや展示会・商談会への支援を行い、京都経済全体への貢献に努めた。

大阪・関西万博で、多くの企業関係者が大阪・関西を訪問する機会が増加する機を捉え、京都市、関係団体と連携し、訪問先の整備やPRツール制作、視察ツアーなどを実施し、地元企業との交流を促進する準備を行ったほか、MICE開催時のCO2排出削減に向けた本格的な調査を実施し、脱炭素に向けたガイドライン・脱炭素に取り組むサプライヤーリスト、CO2算出ツールを公開した。

3 文化・観光・経済の好循環促進

文化と観光を融合する視点から、MICE会場として社寺・文化財等を活用する「ユニークベニュー」の提供に注力してきたが、引き続き充実・拡大に努めるとともに「京都らしいMICE開催支援補助制度」による伝統産業品の活用、京町家や地元商店街への学生訪問など、京都の文化・地域振興とMICE参加者の満足度向上を図ることで、文化・観光・経済の好循環を促進した。加えて、京都市観光協会と共同して「四季彩京都」を発行し、社寺文化財の特別公開情報を提供した。

京都迎賓館支援事業においては、外国賓客に対し花街や料亭の協力を得て京都ならではのおもてなしを行うとともに、令和7年4月の開館20周年に向けて、PR動画の英語字幕版の制作・公開や大阪・関西万博の参加国代表者が集う「IPM2025」での京都迎賓館の紹介など、積極的に迎賓館の価値をPRした。また、参観者の来館記念としての記念品販売において、伝統工芸品の需要拡大を図った。

なお、MICEによる京都の伝統文化・環境保全への貢献を目指す「京都MICE基金」については、主催者に働きかけ会場への募金箱の設置を行う等、基金積み上げに努めた。

4 関係団体との連携推進・組織強化

「古典の日フォーラム」は文化庁との共催事業となった令和4年度から、本フォーラムの中で国民文化祭開催地の文化を紹介し、各地と連携し「古典の日」のさらなる全国展開を図ってきた。沖縄県に始まり、石川県、令和6年は、岐阜県の重要無形民俗文化財である「岩村町獅子舞」を上演、朗読コンテストや文化基金賞の参加・対象者を広く全国から募り古典の日の推進を通じた全国の文化振興への貢献を目指した。

「大阪・関西万博きょうと推進委員会」には共同代表、共同事務局として、「文化庁連携プラットフォーム」には構成団体として参画し、気運醸成や認証

事業など、様々なオール京都の取組に貢献するとともに、府・市・経済団体との連携を強化した。

また、京都市観光協会や京都府観光連盟と連携し、観光の質を高める取組や担い手確保など事業の運営・実施に当たった。

さらに、「会員の集い」の実施にあたっては、前年度と同様、賛助会員PRブースの充実に加え、文化庁や迎賓館関係者も招待する等、会員相互及び関係機関との交流を深めた。

賛助会員に対しては、当財団の活動報告や個別の状況に応じた丁寧な対応に努め、経済の回復と相まって会員数が徐々に増加している。

部門別概要

I 文化交流発信事業（公益目的事業）

1 古典の日推進事業

(1) 「古典の日」普及・定着のための事業

平成20年（2008年）11月1日「源氏物語千年紀記念式典」において「古典の日宣言」を行った翌年に古典の日推進委員会が発足して15年を迎えた。大河ドラマでは、待ちに待った紫式部が主人公の「光る君へ」が放送され、『源氏物語』を始めとして平安文化への関心が高まった。これを好機に、主事業の「古典の日フォーラム」や「朗読コンテスト」、「街かど古典カフェ」「古典の日絵巻」は、平安文学をテーマに取り上げ、作家やそこに登場する人物像、物語を深読みする内容を充実させ、今までの古典ファンに加え、新たなファンの獲得に努めた。

① 古典の日推進委員会発足15周年

「古典の日フォーラム2024」

NHK大河ドラマ「光る君へ」に合わせ、『源氏物語』最後の十帖の舞台となる宇治を会場に東京大学国文科初の女性教員、高木和子氏の講演の他、平安文学第一人者の隴谷壽氏（同志社女子大学名誉教授）、家塚智子氏（宇治市源氏物語ミュージアム館長）を交えて、それぞれに紫式部の魅力について語っていただいた。また文化庁との共催も3年目となり、第39回国民文化祭開催地である岐阜県と連携し、岩村町に伝わる獅子舞を披露していただいた。地域に伝わる伝統芸能を地元の方で継承することの意義が感じられるものとなった。

◇開催日 令和6年11月1日（金） 13時～16時10分

◇会場 宇治市文化センター大ホール

◇参加者 823名

◇概要

【第1部】

- ・テーマ曲「古典の日燦讚」と「古典の日宣言」
演奏 大谷祥子と六条山楽坊



大谷祥子（箏）、菊友葵風蘭（箏）、発知彩弥（箏）、有吉真央（箏）、
藤林由里（ピアノ）、饗庭凱山（尺八）、平山美萌（ヴァイオリン）、
徳安芽里（チェロ）、祝丸（太鼓/鳴り物）

宣言 谷崎勘九郎（第13回古典の日朗読コンテスト「中学・高校生部門
大賞」受賞者）

- 開催者挨拶
村田純一（古典の日推進委員会会長）
森田正信（文化庁次長）
- 来賓祝辞
伊吹文明（元衆議院議長）
- 第39回国民文化祭との連携
古田肇（岐阜県知事）メッセージ 収録映像放映
岩村町獅子舞（岐阜県重要無形民俗文化財）

【第2部】「紫式部の世界」

- 講演「源氏物語の魅力」高木和子（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
- パネルディスカッション「紫式部の魅力」
臈谷壽（同志社女子大学名誉教授）
高木和子
家塚智子（宇治市源氏物語ミュージアム館長）
コーディネーター：三宅民夫（元NHKアナウンサー）



② 「第16回古典の日朗読コンテスト」

「文学は時代を映す 躍動する平安の女性作家」を
テーマに『源氏物語』『枕草子』を課題作品とし、
全国から【中学・高校生部門】266名【一般部門】
225名、合計491名の応募があった。1次・2次
審査の通過者14名が11月16日に行われた公開
最終審査会に臨んだ。



◆フォーラム「古典の世界を読む2024」公開最終審査会と表彰式

◇開催日 令和6年11月16日(土) 13時~16時05分

◇会場 金剛能楽堂

◇参加者 209名

録音音源による審査を通過した中学・高校生部門から6名、一般部門から8名の14名が最終審査会に出場した。昨年から設けた会場の皆さんの投票で選ぶ「みんなの感動」賞は、大賞を受賞した余田順子さんがW受賞となり会場内が沸き立った。



コンテスト審査の合間には、天台声明と最終審査会に出場した中学・高校生のインタビューでお楽しみいただいた。

また、本コンテストの【中学・高校生部門】大賞と京都府高等学校文化連盟会長賞受賞者が、12月15日に開催された全国高校生伝統文化フェスティバルで朗読を披露した。



◆クラウドファンディング

朗読コンテストには、これまでの15年間で6,000を超える応募があり、その半数は中学・高校生となっている。その中学、高校生が気軽に参加していただけるようにと開始以来審査料は無料としてきた。未来につないでいく大事な担い手である中高生の審査料無料を続けるため、クラウドファンディングを実施した。多く方からご協力、賛同をいただき目標額の200万円を達成できた。古典朗読のすそ野を広げる努力を今後も続けていく。

③ 「街かど古典カフェ」

長文のために途中でつまずいてしまう人が多いのが『源氏物語』。よい印象を持たれない光源氏。平安時代の女性の生き方について、現代の読者の素朴な思いを作家、奥山景布子氏と読み解く連続講座。現代のフェミニズムに近い感覚に注目し『源氏物語』を純粹に楽しむ読み方に新発見がいっぱいの講座となった。



◇会 場：京都経済センター3階〈3-F〉会議室

◇日 時：令和6年4月27日、5月25日（土）10時～11時30分

◇内容

第1回 フェミニスト紫式部 ～源氏物語は平安時代の写し鏡？～

第2回 ウィメンズ・スタディズからみる源氏物語
～平安時代の男女関係 女の策略 男の本音～

◇参加者 第1回/37名 第2回/34名



(2) 情報発信・広報活動等

- ・「古典の日」ホームページ

全国に向けた「古典の日」の発信と古典の普及に努めた。

- ・古典の日絵巻第十三巻「御簾の下からこぼれ出る女房装束」

平安時代の絵巻物等に描かれた天皇や貴族の居住空間やそこからこぼれ出る女性の装束等について、住まいの文化史が専門の大妻女子大学准教授の赤澤真理氏が写真や美しい絵巻物とともに解説。



令和6年〔4月〕 源氏物語の場合に示された女房の袖口

〔5月〕 庭園にみる「八橋」の意匠—京都仙洞御所の場合

- [6月] 「栄花物語」女性の賀宴に示された女房の袖口
- [7月] 「駒競行幸絵巻」にみる彰子の座
- [8月] 「小野雪見御幸絵巻」にみる皇太后歆子のおもてなし
- [9月] 『紫式部日記』にみる紫式部の局
- [10月] 「源氏物語絵巻」柏木（三）にみる薫の生誕五十日のお祝い
- [11月] 歌合・絵合における女房の出衣
- [12月] 源氏物語絵にみる光源氏の垣間見
- 令和7年 [1月] 御簾を巻き上げる清少納言
- [2月] 『源氏物語』花宴巻と御簾の中に半身を入れる光源氏
- [3月] 『源氏物語』の空間をもとめて

・ポッドキャスト「山本淳子の源氏物語解説 朗読とともに」

朗読に解説を加えた親しみやすい内容のコンテンツで古典ファンを増やすことにつなげようと進めている事業。京都先端科学大学の山本淳子教授の解説と斉藤由織さんの朗読で産経新聞のポッドキャストにおいて（一社）伝統文化交流協会との共同事業で令和5年10月から順次配信中。



◇配信内容（令和7年3月現在）

- ① 桐壺その1 ② 桐壺その2 ③ 帚木 ④ 空蝉 ⑤ 夕顔その1 ⑥ 夕顔その2
 ⑦ 若紫 ⑧ 末摘花 ⑨ 紅葉賀 ⑩ 花宴 ⑪ 葵その1 ⑫ 葵その2 ⑬ 賢木 ⑭ 花散里
 ⑮ 須磨 ⑯ 明石 ⑰ 霽標 ⑱ 蓬生 ⑲ 関屋 ⑳ 歌合 ㉑ 松風 ㉒ 薄雲

(3) 共催事業、後援、ロゴ・シンボルマークの使用許可申請数

【共催申請件数】3件 【後援申請件数】40件

【ロゴ・シンボルマーク申請件数】9件

(4) 「古典の日」普及・推進活動及び広報活動等

・ホームページアクセス数：2万件

（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

• 古典の日宣言 17 年目をむかえ

「第 2 回古典の日フォーラム 美しき愛知」開催

昨年に引き続き、名古屋の日本の伝統文化をつなぐ実行委員会の主催で開催。地元の古典を継承、発信するフォーラムで、全国で「古典の日」の取り組みが行われることを願う第一歩となる事業。源氏物語のころをテーマとした講演や舞踊「光源氏の



『藤』」等の上演

◇会 場：名古屋能楽堂

◇日 時：令和 7 年 3 月 23 日（日）

◇概 要：

• 箏曲と「古典の日宣言」

演奏『宇宙の詩』愛知県立江南高等学校箏曲部

宣言 佐々木心春（南山高等・中学校女子部）

• 挨拶

伊吹文明（元「古典の日」推進議員連盟顧問）

今泉柔剛（文化庁審議官）

大村秀章（愛知県知事）

• 「源氏物語のころ」

講演 高木和子（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

対談 高橋亨（古典の日フォーラム美しき愛知アドバイザー）

舞踊 清元『藤』 - 『源氏物語』紫式部- 市川阿朱花・米澤菜月

清元『保名』市川櫻香 三味線/清元菊輔 浄瑠璃/清元清美太夫

2 古典の日文化基金賞事業

日本の古典文化の研究、普及、啓発活動等に貢献した個人、法人、団体を顕彰し、古典の日の推進に寄与することを目的として設立した「古典の日文化基金賞」第 4 回授賞式を令和 6 年 9 月 3 日に実施した。

「文学・思想」、「伝統芸能・音楽」「美術・生活文化」は分野毎に各 1 件。次世代の日本文化を担う若者たちを顕彰する特別賞「古典の日文化基金未来賞」は、2 団体 1 個人に賞を贈呈した。

◆第4回「古典の日文化基金賞」授賞式

◇開催日 令和6年9月3日（火）13時～16時

◇会場 京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ

◇参加者 345名



・受賞者

【文学・思想】NHK100分de名著制作スタッフ

【伝統芸能・音楽】御陣乗太鼓保存会

【美術・生活文化】漆芸職人集団彦十蒔絵

【古典の日文化基金未来賞】

湯前町立湯前中学校[伝統芸能継承活動]

The American School in Japan 狂言クラブ

味方梓（観世流能楽師）

【古典の日文化基金賞顕彰委員会会長特別表彰】

公益財団法人冷泉家時雨亭文庫

◇概要

・テーマ曲「古典の日燦讚」と「古典の日宣言」

演奏 大谷祥子と六条山楽坊

宣言 西川怜那（第15回古典の日朗読コンテスト「中学・高校生部門」大賞受賞）

・おことば 彬子女王殿下（古典の日文化基金賞顕彰委員会名誉総裁）

・主催者挨拶 村田純一（古典の日文化基金賞顕彰委員会会長）

・来賓祝辞 都倉俊一（文化庁長官）

・贈賞式

それぞれの活動の紹介の後、賞状と盾、副賞を授与した。

・講評 臈谷壽（古典の日文化基金賞選考委員会副委員長）



- 「ことばの力 声のちから」
落語「崇徳院」桂吉坊（落語家/第3回[伝統芸能・音楽]分野受賞）
英詩「THE CITY THAT SILK BUILT」クリス・モズデル
（詩人/第3回[文学・思想]分野受賞）
- 朗読「文庫日記」から 檀ふみ
（俳優/古典の日文化基金賞選考委員会委員）

3 京都迎賓館支援事業

京都の伝統技能の粋を集めて建設された京都迎賓館で行われる外国賓客の接遇や参観事業の支援を通して、京都の文化の伝統技能やおもてなしの文化を普及する事業を行った。

さらに、来年度の開館20周年及び大阪・関西万博開催に向けて、同館の価値を広く発信する取り組みを行った。

（1）外国賓客のおもてなし

以下の外国賓客を京都迎賓館で接遇する際に、地元の花街や料亭の協力を得ながら、京都が世界に誇る京都の伝統技能や京料理でのおもてなしを行った。

令和7年2月 ザンビア共和国大統領



令和7年3月 イタリア共和国大統領



(2) 参観支援・啓発関連

① 京都迎賓館PR動画英語字幕版の作成・公開

令和3年度から昨年度までに制作し公開し好評を得ている3本のPR動画について、インバウンド客の参観の増加や、令和7年度の開館20周年や大阪・関西万博開催を控え、国外への発信力を高めるため、英語字幕版を制作した。現在、同館の参観者向けに放映するほか、日本語版と合わせて本財団のホームページや京都迎賓館公式 YouTube チャンネルなどで公開している。

タイトル：京都迎賓館PR動画「京都迎賓館—おもてなしの心—」

- 1 京料理（瓢亭14代当主 高橋英一氏出演）（R3年度制作）
- 2 華道（都未生流六世家元 大津光章氏出演）（R4年度制作）
- 3 茶道（裏千家16代家元 千宗室氏出演）（R5年度制作）

（内容）

京都迎賓館の紹介（共通）と各分野の魅力やおもてなしの紹介
（6～7分程度）

② もてなし・しつらいプロデュース事業

京都迎賓館における外国賓客接遇の際、しつらいの一つとして活用するいけばな文化の継承・発展のため、いけばな協会への支援を行った。

また、迎賓館での下記の外国賓客の接遇に際し、しつらいアドバイザー（嵯峨美術大学学長 佐々木正子氏）の御指導の下、季節や国に応じた工夫を凝らしながら、京都府京都文化博物館、京都市立美術館、京都府立堂本印象美術館などから、地元美術工芸品を借用して展示し、賓客が迎賓館での滞在時間を楽しんでいただけるよう、支援を行った。

このほかにも、来年で迎賓館が開館20周年を迎えることも踏まえ、接遇時に展示する地元美術工芸品について、上記の地元美術館と協議を行い、借用できる美術品の更なる充実を図った。

令和6年	6月	マレーシア議会議長
令和7年	2月	ザンビア共和国大統領
令和7年	2月	ジャマイカ下院議員議長
令和7年	2月	トルコ共和国議会議長
令和7年	3月	イタリア共和国大統領

③ 京都迎賓館一般公開への支援事業

京都迎賓館一般公開に関する周知チラシの作成を行うとともに、京都の玄関口である京都駅に京都府・京都市が共同で設置する「京都総合観光案内所」などでチラシの配布を行うなど、一般公開への支援を実施した。

また、京都を中心に約700軒のホテル・旅館に置かれる観光情報誌に、一般公開に関する広告記事の掲載を行い、京都を訪れる観光客に対して広く発信した。

④ 特別企画「京都迎賓館文化サロン」への企画協力

京都迎賓館を会場に、日本の歴史・文化に関するテーマ毎に京都迎賓館にゆかりのある講師による講演等及びプレミアムなガイドツアーを体験できる特別企画「京都迎賓館文化サロン」について、引き続き、企画協力を行った。

◇第10回「漆工芸～螺鈿らでん～」

- ・開催日
令和6年8月22日（木）
- ・内容
 - 螺鈿をテーマに講師・北村繁氏による講演＜藤の間＞
 - 講師・北村氏による螺鈿の実演＜夕映えの間＞
 - 螺鈿・蒔絵の技術を駆使した座卓を初公開＜夕映えの間＞
 - 首脳会談などが行われる通常非公開の「水明の間」を含む館内ガイドツアー

◇第11回「有職工芸ゆうそくこうげい～王朝のかたち～」

- ・開催日
令和7年2月13日（木）
- ・内容
 - 「有職工芸ゆうそくこうげい」について講師・林美木子氏による講演
 - NHK大河ドラマ「光る君へ」で使用した檜扇の下絵の展示
 - 首脳会談などが行われる通常非公開の「水明の間」を含む館内ガイドツアー

⑤ 万博「IPM2025」における京都迎賓館の紹介

令和7年1月15日・16日に姫路市で開催された「IPM2025」において、万博の参加国の代表や実務責任者等(約160カ国・地域等、約600人)に対し、京都迎賓館と連携して同館を紹介し、同館の価値を広く発信するとともに、今後の各国首脳の接遇利用につなげる取り組みを行った。本事業は、大阪・関西万博きょうと推進委員会のアクションプランに登録した「京都迎賓館を通じた京都の魅力発信」の取り組みの一環として実施した。

4 文化振興に資する発信事業

(1) 京都創生推進フォーラム事業

京都市からの委託を受け「京都創生（歴史都市・京都の魅力に磨きをかけ、世界へ発信していく取組）」の意義を周知するため、会員に向けた情報発信を行うホームページの管理・運営するほか、京都市が海外から寄附を募る事業の支援などを実施した。

(2) 四季彩京都の発行

社寺・文化財特別公開情報を掲載した「四季彩京都」について、令和5年度に引き続き、京都市観光協会との共同発行を年2回行い、紙面の更なる充実や効率化を図りながら、関係団体と連携した発信事業に取り組んだ。

Ⅱ 国際観光コンベンション事業（公益目的事業）

1 コンベンション（MICE）事業

（1）プロモーション事業

○ 海外プロモーション活動

- ① 2024年5月14日～16日、ドイツ・フランクフルトにおいて開催された「IMEX Frankfurt 2024」にて、京都ブースを出展した（共同出展：京都東急ホテル/the Hotel Higashiyama、国立京都国際会館、株式会社のぞみ）。世界から約12,000名のMICE業界担当者が参加し、4,000名を超える招待バイヤー（案件保有者）が参加し、京都ブースでは、欧州のバイヤーを中心に118件の商談を実施し、共同出展事業者と、バイヤーの相互紹介を行いながら、具体的な案件の取得や、ネットワーク作りを更に強化できた。また国際会議協会（ICCA）アジア・パシフィック事務局長と面談を実施し、世界のサステナブルな取り組みや今後の連携について意見交換を実施した。
- ② 2024年11月19日～21日、スペイン・バルセロナにおいて開催された「IBTM World 2024」に昨年に続き出展した。本年は、世界中から11,000名を超える参加者が参加し、2,500名を超える招待バイヤー（案件保有者）が訪れ、58件の商談を行った。ヨーロッパや北米を中心に多くのバイヤーが来場し、京都の基本情報の発信に加え、ユニークベニューやSDGsに関するエクスクーションなどを紹介した。
- ③ 2025年2月10日～12日、オーストラリア・メルボルンにおいて開催されたアジア太平洋地区最大規模のMICE商談会「AIM E 2025」に出展した。世界中から4,500名の参加者が参加し、650名の招待バイヤー（案件保有者）が訪れ、京都ブースでは34件の商談を実施した。
- ④ 2024年9月、アジア最大級のMICEメディア「M&C ASIA」が主催する表彰プログラム「M&C Asia Stella Awards 2024」

において、京都市が「Best Incentive City (Asia)」として選出され、受賞した。同賞は、2019年に創設され、年に1度、読者投票を経て選出され、MICE業界の専門家によって承認された都市・施設などを表彰するもので、都市単位での受賞は日本で初めてとなった。



○ 国内プロモーション活動

昨年度、潜在的な主催者候補として、京都・滋賀・奈良・神戸等の多数の大学教授の直接訪問を行ったが、本年は新たに学術集会事務局約50件にコンタクトを取り、会議誘致等の可能性を確認した。昨年の主催者訪問の実績等をベースに、50件超の主催者と具体的な会議の誘致や助成に関するやり取りを行い、引き続き当財団の支援活動の広報・フォローアップを実施した。この結果、大型国際会議を含め、令和6年度の誘致成功件数は16件となった。

○ 世界的なMICEメディアと連携した商談会の開催

昨年に引き続き、ノーススターミーティンググループに属するアジア最大級のMICEメディア「M&C ASIA」の協力の下、MICE専門の商談会「KYOTO MICE TRADESHOW 2025」を2025年2月19日（水）～21日（金）にて開催した。

京都をはじめとするMICE関連事業者（ホテル・コンベンションビューロー・DMC・会議施設等）と、経済効果が高く、SDGsの達成にも貢献するような付加価値の高い国際会議、企業主催の会議・インセンティブツアー等の開催地決定権を持つ海外有力バイヤー（企業・団体等）を招いて、商談やファムトリップ等を実施した。商談会開催前には、これから京都でのMICE開催を検討するバイヤーや市内事業者に対し、京都観光モラルの紹介、マナー順守、時期・時間・場所の分散等呼びかけるなど、単に京都でのMICE開催を目指すだけでなく、市民生活と調和したMICE開催を呼びかけた。

(2) 開催支援事業

① 政府関連特定会議等の京都開催への運営協力

[第21回科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)]

公開シンポジウム	2024年10月5日 (現地+オンライン開催)	505名参加
歓迎レセプション	2024年10月7日 (ホテルオークラ京都)	613名参加
京都エクスカージョン	2024年10月5日～9日	169名参加

本年度は、観光庁「国際会議の開催効果拡大実証事業」に採択されたことから、STS事務局と連携し、参加者と学生・地元企業との交流機会の創出、公開講座による府民・市民への知見共有の拡大（参加者数・参加年齢層の拡大）、プレポストツアー実施による前後泊需要の創出・経済効果の拡大、地産地消の強化、カーボンオフセットの実施など、従来からの取組内容を拡大・充実させた。これにより、参加者満足度向上のみならず、国際会議の開催による府民・市民・企業への便益可視化・開催意義の認知拡大に成功した。

② 京都スマートシティエキスポへの協力等関西文化学術研究都市推進への参画

2024年10月3日～4日、けいはんなオープンイノベーションセンター(KICK)等において開催された京都スマートシティエキスポ2024に対して、運営協議会等に参画するとともに、会場における京都文化の披露に協賛を行うなど、開催支援を行った。

また、けいはんなコンベンション誘致推進協議会への参画のほか、令和6年度は京都府等と共に観光庁「海外からのミーティング・インセンティブ旅行誘致に向けた地域連携支援事業」の採択を受け、「IVS 2024 Kyoto」において、けいはんなエリアへのテクニカルビジットを行うとともに、その様子をプロモーション動画として公開するなど、関西文化学術研究都市のMICE拠点形成に資する取り組みを行った。

③ MI案件・展示会(E)の開催支援

京都の都市格に相応しい大手企業や組織が主催する多くのMI・Eの京都開催を支援した。

2024年5月に開催された台湾の保険会社によるインセンティブツアーでは、エクスカーション先として、京都府域を提案し採択され、5日間で延べ200名が、南丹市や宮津市などを訪れた。



また、京都市内で開催された表彰式では、着物や扇子などを展示し、京都伝統産業の活性化に向けた取組も実施された。

2024年6月に開催された、世界各国から印僑が集まるイベントでは、ユニークベニューの活用に関するサポートの他、主催者のニーズにあった京都のスタートアップ企業との交流を実現させ、イベント参加者と地元の事業者が交流できる機会を創出した。2024年9月に開催された保険会社の優績表彰式では、京都市の「DO YOU KYOTO?クレジット制度」を活用し、クレジットを購入いただいたことで、京都の環境に配慮した開催を実現した。



また、令和7年度には、京都国立博物館を貸し切ったハイブランドの展示・商談会や、寺院を貸し切ったハイブランドのファッションショー、ラグジュアリーホテルを貸し切ったインセンティブツアーの開催などが決まっており、次年度以降の開催に向けた支援を実施した。

④ ユニークベニュー等の企画・提案

(公社)京都市観光協会や賛助会員事業者と連携しながら、開催地ならではのユニークな施設・会場(ユニークベニュー)の企画・提案を行った。

(3) 京都 MICE 基金の運用

国際会議などMICEによる地域貢献促進のため、京都府・京都市などの協力の下創設した「京都 MICE 基金」の運用を行った。

本基金の運用を通じて、京都の多彩な文化・芸術や豊かな自然環境、美しい景観の保全・継承活用を図り、京都の魅力や人々の暮らしの向上、MICE・観光振興及びSDGs達成に寄与する取り組みへの支援・貢献を行った。

(4) 各種支援制度の運用状況等

① 助成金

(ア) 大規模国際コンベンション開催支援助成金の活用（京都市）

[申請案件（2024年度申請(認定)分）]

会議名	参加者	開催予定年度	認定額 (万円)
FIB コングレス 2030	4,000 名	2030 年度	300
アジアオセアニア婦人科内視鏡学会2028	3,000 名	2028 年度	300
ゴールドシュミット国際会議 2028	3,700 名	2028 年度	400
第25回日本臨床腫瘍学会学術集会	7,000 名	2027 年度	300
第36回人工知能国際会議	3,000 名	2027 年度	500
国際神経化学・アジア太平洋神経化学会合同大会 2027	3,000 名	2027 年度	300

[2024年度交付案件]

会議名	参加者	会期	認定額 (万円)
第21回国際生物物理会議	1,914 名	2024年 6月24日～ 6月28日	300
第27回国際昆虫学会議	4,278 名	2024年 8月25日～ 8月30日	400

(イ) 京都市MICE開催支援助成金の活用（京都市）

利用件数：31件 支援金額：6,155,553円

(ロ) 「京都らしいMICE開催支援補助制度」の活用（京都市）

利用件数：29件（うち伝統産業製品16件）

支援金額：11,844,447円

（うち伝統産業製品支援 6,189,909円）

(ハ) 「サステナブルなMICE開催支援補助制度」の活用（京都市）

利用件数：51件

支援金額：12,000,000円

(オ) 「京都府MICE開催支援助成制度」の活用（京都府）

利用件数：16件

支援金額：3,494,340円

（コンベンション：8件 2,120,000円

インセンティブツアー：1件 350,000円

エクスカージョン：7件 1,024,340円）

(カ) MICE向け京都伝統産業製品貸出制度の活用

利用件数：6件

② その他の支援サービス

(ア) 京都イメージバンクの活用

利用件数：55件

(イ) 公開シンポジウム等広報支援制度

利用件数：0件

(ウ) 京都開催PR用バナー貸出制度

利用件数：2件

(エ) 京都市MICEPR動画の貸出・提供

利用件数：11件

(オ) 京都ストックフッターライブラリ映像の貸出・提供

利用件数：7件

(カ) 各種広報印刷物等の提供

利用件数：40件（京都観光案内地図(日英併記)ほか)

(5) 広報宣伝事業

① メールマガジン(京都観光MICEニュースレター)の発行

当財団賛助会員や京都市観光協会会員に加え、商談会、視察、問合せ等で接触する国内外のミーティングプランナーMICE主催者に対し、定期的に京都の観光MICE関連情報を発信することにより、京都でのMICE開催を意識させ、京都へのMICE誘致促進につなげるためメールマガジンの配信を実施した。

② ホームページによる京都におけるMICE関連情報の発信

国内外のMICE主催者・参加者や事業者、加えて京都市内の大学関係

者に対して、ホームページによるMICE開催都市「京都」の情報発信を行った。

(6) MICE関連情報の調査・収集・検討

① 情報の収集

観光庁、日本政府観光局(JNTO)、日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB)、ICCA (International Congress and Convention Association 国際会議協会)をはじめ関係団体との積極的な交流を図り、MICE 関連情報の収集に努めた。

② 京都大学との協力による国際会議の誘致及び開催促進

「京都市と京都大学との国際学術都市としての魅力向上に関する連携協定書」(2015年8月締結)に基づき、京都大学と国際会議の誘致及び開催推進に関する協議等を継続して実施している。また、各学部の教授会や、研究支援組織の会合等、様々な機会を捉えて、支援施策のPRを行うとともに情報収集に努めている。

③ 国際会議開催の機会を捉えた、地元との交流促進

2024年8月25日から国立京都国際会館で開催された「第27回国際昆虫学会議」に先立ち、環境学習に取り組む伏見区内の3施設(青少年科学センター・京エコロジーセンター・さすてな京都)と当財団・主催者が連携し、環境の保全・生物多様性に関する市民対象のイベントが実施された。普段学術会議とは関わる機会が少ない小学生を対象に実施され、同学会関係者による学習機会を創出した。



④ 統計調査・発行

国際会議統計「2023 京都で開催された国際会議」発行

⑤ 万博を契機とした海外ビジネス交流促進・ネットワーク構築

大阪・関西万博で、多くの企業関係者が大阪・関西を訪問する機会が増加する機を捉え、京都市、関係団体と連携し、訪問先の整備やPRツール制作、視察ツアー等を実施し、地元企業との交流を促進する準備を行った。

その一環として、産業都市としての京都の魅力について理解を深めてもらうことを目的に2024年10月30日から31日の2日間にわたり、駐日外交団を対象とした地方視察ツアーを、また、令和7年1月24日には関西6府県にある総領事館・名誉領事館等で構成される関西領事団を対象とした視察ツアーを実施した。



⑥ 環境に配慮したMICE開催に向けた取組

京都市と連携し、主催者協力の下、MICE開催時のCO2排出削減に向けた本格的な調査を実施した。WEBにて脱炭素に向けたガイドライン・脱炭素に取り組むサプライヤーリスト、CO2算出ツールを、2025年3月31日に公開した。

(7) 観光関連団体等との連携事業

以下の事業実施にあたり、事務局業務を担った。

① Culture & Art Moments @KYOTO 事業

京都府、Art Collaboration Kyoto 実行委員会及び（公社）京都府観光連盟と共に、Culture & Art Moments @KYOTO 実行委員会を組織し、2024年11月1日～3日に開催された「Art Collaboration Kyoto」にあわせて、現代アートの視点からの高付加価値型文化観光体験ツアーを企画・実施した。本事業は、観光庁の「特

別体験事業」の採択を受けて行い、海の京都・森の京都・お茶の京都DMOとも連携し、京都ならではの付加価値コンテンツを開発した。



京焼の上絵付体験



仁和寺の夜間貸切り



石清水八幡宮での特別参列

2 国際観光事業（京都市観光協会との協働事業）

（1）海外情報拠点管理運営事業（京都市委託事業）

世界7都市（ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、シドニー、台北、上海）において情報拠点（レップ窓口）を設置し、現地の旅行動向等の情報を収集するとともに、マーケティングに基づいた京都観光のPR活動等を実施した。

（2）京都市域内統計収集・分析

京都市域のホテル115施設、旅館25施設の協力を得て、国・地域別の宿泊状況調査を毎月実施し、データ月報として発表した。また、日別の稼働率調査や、数カ月先までの稼働率予測にも取り組んだ。さらに、世界最大のホテルデータサービス提供会社、STRとの連携のもと、客室平均単価(ADR)等の情報を国内外主要都市と比較するなどの情報分析を行った。

（3）多言語ウェブサイトの運用事業（京都市補助事業）

外国人観光客向けに情報発信しているウェブサイト「Kyoto City Official Travel Guide」において、行祭事・イベント予定等の情報発信のほか、京都観光モラル・マナー、混雑緩和・分散観光、文化・芸術体験に係る情報の発信強化を行った。

（4）ソーシャルネットワークの運用事業（京都市補助事業）

英語 Facebook 公式アカウント「Visit Kyoto」や、Instagram 公式アカウント「visit_kyoto」、中国のSNS「Weibo（ウェイボー）」の京都観光公式アカウントにおいて、行祭事・イベント予定等の情報のほか、京都

観光モラル・マナー、混雑緩和・分散観光、文化・芸術体験に係る情報等の発信を行った。

**(5) 海外メディア取材誘致・ファムトリップ支援等事業
(京都市委託・補助事業)**

海外有力メディア（新聞、雑誌、テレビ、WEB等）の取材受入や、宿泊施設等が実施するファムトリップへの支援を行い、メディア等への効果的な露出を図るとともに、インフルエンサーを活用した SNS 等でのプロモーションを実施した。実施にあたっては、直近の海外トレンドや京都市の状況を勘案し、京都観光モラル・マナー、混雑緩和・分散観光といった、サステナブル・ツーリズムの視点を重視し取り組んだ。

また、有力旅行媒体である Conde Nast Traveler へ広告を掲載するなど、京都のブランドイメージの向上を図った。

(6) 旅行博・商談会出展事業（京都市委託事業〈一部〉）

海外で開催されている旅行商談会や展示会に出展し、京都の上質な観光コンテンツ等に関するプロモーションを行い、多くの顧客を有する海外の有力な旅行事業者やメディア関係者等に対する京都の魅力の訴求とネットワークの構築を図った。

2024年 6月	Japan Addict（フランス・ストラスブール）
2024年12月	ILTM Cannes（フランス・カンヌ）
2025年 1月	IMM North America（アメリカ・NY）
2025年 1月	Travel & Adventure Show（アメリカ・NY）
2025年 3月	ITB Berlin（ドイツ・ベルリン）

(7) 京都市認定通訳ガイド認定・育成事業（京都市委託・補助事業）

京都観光の専門知識を身に付け、外国語で京都の奥深い魅力を伝えることができる京都市独自の通訳ガイド「京都市ビジターズホスト（KVH）」の新規募集（7期生）を行うとともに、6期生の認定・登録を行った。さらに、既存のKVH（1～5期生）を対象としたスキルアップ研修等を実施した。また、KVHを活用し、京都観光モラルの実践につながるツアーコースの造成に取り組んだ。

(8) インバウンド向けコンテンツ造成支援事業（京都市補助事業）

2021年11月に京都市観光協会が京都信用金庫と締結した連携協定に基づき、インバウンド向け観光コンテンツ造成支援プログラム「インバウンドイノベーション京都」を実施した。支援希望事業者46件の申込みのうち5件を採択し、有識者や在住外国人によるモニターツアーを行った。また、インバウンドをテーマにした業界交流イベント「京都インバウンドカフェ」を6回にわたり開催し、事業者同士のネットワークづくりを促進しつつ、コンテンツ造成支援プログラムとの連携を図った。

(9) 多言語コールセンター運営事業（京都市補助事業＜一部＞）

京都市観光協会の会員を対象とした多言語コールセンターを運営し、宿泊施設をはじめとした外国人向けサービス提供事業者のサポートを行った。また、同協会の会員以外も対象とした、市内免税店向けの多言語コールセンターも合わせて運営を行った。

3 広域プロモーション事業

(1) 宇治茶プレミアムブランド化事業

お茶の京都DMO及び茶業関係団体等これまでの宇治茶プレミアムブランド化（高付加価値化）に取り組んできたネットワークを生かし、宇治茶の魅力を発信し、国外における宇治茶ブランドの浸透を図るとともに、宇治茶産地への観光客流入、土産品販売による観光振興・域内経済の活性化が進められるよう取り組んだ。

(2) ゴルフツーリズム事業

一昨年度、京都府や府内市町、京都府観光連盟、京都市観光協会、森の京都DMO等と共に、2023年3月14日～16日まで宮崎にて開催された、アジアゴルフツーリズムコンベンションに参加し、同17日より20日まで実施された京都でのポストファムトリップを実施した。

本年度は、昨年度に引き続き、ファムトリップに参加したバイヤーとのネットワーク維持に努め、ツアー造成に係る情報提供を実施した。

Ⅲ その他の事業（公益目的事業）

1 京都文化交流コンベンションビューロー通信の発行

当財団の1年間の活動状況を中心に、様々な有益な情報を掲載した会報誌を年4回（4月・7月・10月・1月）発行し、賛助会員及び関係団体に送付し、周知した。

2 関係団体との連携等

(1) 文化に関するオール京都の取組

京都府・京都市・経済団体等オール京都で立ち上げた、文化庁京都移転の機運醸成等を図る推進母体である「文化庁京都移転プラットフォーム」から発展した「文化庁連携プラットフォーム」に引き続き参画し、京都府内で開催されたプロジェクトや広報発信等に連携・協力を行った。

(2) 大阪・関西万博に向けたオール京都の取組

2025年4月に開幕する大阪・関西万博に向け、オール京都で取り組む「大阪・関西万博きょうと推進委員会」の構成団体の一員として共同代表及び共同事務局を担い、京都府、京都市、京都商工会議所、京都知恵産業創造の森とともに、経済界をはじめとする京都を支える関係諸団体や有識者等と連携し、京都産業の強みや府内各地の文化や観光資源などの魅力を国内外に広くアピールした。また、当財団が推進するMICE誘致事業や古典の日の普及、京都迎賓館を通した京都の魅力発信等を同推進委員会のアクションプランとして位置づけ、積極的に取り組んだ。



万博半年前機運醸成イベント「京都イロドリ EXPO こといろ」
（2024年10月12日 京都駅前広場他で開催）

(3) 「花灯路」事業等の取組

関係団体と連携し、「京都花灯路」や「京の七夕」へ実行委員会の一員として参画し、民間事業者等による観光振興の支援に取り組んだ。

また、「時代祭行列」において、賛助会員から募集した参加者等からなる隊列により、「平安建都 1300 年に向けて」「古典の日」の横断幕を掲げて行列の先頭役を担った。



3 ホームページの内容充実等

文化交流事業の紹介や各種サービスの活用を促進するため、ホームページを随時更新し、発信を行った。

IV 共益・収益事業

1 賛助会員制度の運営

(1) 新規勧誘の促進

入会メリット等を示し、積極的に勧誘を行ったところ、宿泊業を中心にものづくり系企業等を含め、18の企業に18口入会をいただいた。

令和6年度

賛助会員 345件 525口

新規入会 18件18口 退会13件14口 減口3件9口

差引5件増5口減

ア 新規加入会員（18件18口）

会 員 名
株式会社ケイエムシステム
デュシタニ京都
祇園かにを喰らう
VISIONS AND PARADOX 株式会社
Off Roads 株式会社
青野株式会社
ヘアラックス株式会社
ヒルトン京都
嵐山 祐齋亭
ヒルトン・ガーデン・イン京都四条烏丸
GoAT trip 株式会社
有限会社フクオカ機業
International Conference Services (ICS)
グローバル・リクルートメント・スペシャリスト株式会社
株式会社ピアトゥー
インタラクティブ株式会社
京都デニム
ジャパンフードエンターテイメント株式会社

イ 退会会員（13件14口）

会 員 名
MUNI KYOTO
有限会社一九二八
西山旅館
リリーレース・インターナショナル株式会社
黄桜株式会社
嵐山弁慶
近畿リサーチセンター
株式会社エースキューブ
若林佛具製作所
株式会社菊水
アド・京都
鶴屋吉信
株式会社日本武道ツーリズム機構

ウ 賛助会員数の推移

年度別	会員数	口数
平成20年度末	264	384
平成21年度末	257	374
平成22年度末	255	367
平成23年度末	244	356
平成24年度末	289	507
平成25年度末	297	517
平成26年度末	337	562
平成27年度末	370	601
平成28年度末	398	629
平成29年度末	396	608
平成30年度末	385	591
令和元年度末	383	587
令和2年度末	362	536
令和3年度末	332	484
令和4年度末	335	525
令和5年度末	340	530
令和6年度末	345	525

(2) 「会員の集い」の開催

賛助会員間の情報交換・相互のネットワーク強化を目的として毎年開催している「会員の集い」を令和7年2月18日に開催した。多くの方にご参集をいただき、会場の至るところで交流の輪が広がった。

※参加者数 374名

2 京都迎賓館記念品の販売

京都迎賓館の通年公開に併せて、京都迎賓館で記念品の販売を実施した。

令和6年度は、相次ぐ物価上昇に伴い、商品の仕入れ値が高騰化したことを受け、販売商品の一部の値上げを実施した。

そういった状況にあるが、陳列商品のマンネリ化を防ぐため、新商品の開発（お香セット）にも積極的に取り組み、引き続き、販売・管理体制の改善に取り組んでいる。

販売額については、店舗面積が大幅に縮小された影響などもあり、移転前の最高の販売額を記録した平成30年度の半分程度となるが、前年度並みとなった。

V 管理運営

1 理事会の開催

(1) 第27回理事会

- ア 日時 令和6年6月7日（金） 午前11時～12時
- イ 会場 ホテルオークラ京都 「翠雲」
- ウ 出席者 理事12名、監事1名
- エ 議事 第1号議案 令和5年度事業報告に関する件
第2号議案 令和5年度決算に関する件
第3号議案 令和6年度収支予算の補正に関する件
第4号議案 「就業規程」の一部改正に関する件
第5号議案 「処務規程」の一部改正に関する件
第6号議案 評議員会の開催に関する件

(2) 第28回理事会

- ア 日時 令和7年3月7日（金） 午前10時～午前11時
- イ 会場 ホテルオークラ京都 「暁雲」
- ウ 出席者 理事13名、監事2名
- エ 議事 第1号議案 令和7年度事業計画に関する件
第2号議案 令和7年度収支予算に関する件
第3号議案 令和6年度収支予算の補正に関する件
第4号議案 評議員会の開催に関する件

2 評議員会の開催

(1) 第27回評議員会

- ア 日 時 令和6年6月24日（月）
午後1時30分～午後2時30分
- イ 会 場 ANA クラウンプラザ京都ホテル 「朱雀」
- ウ 出席者 評議員8名、専務理事1名、監事1名
- エ 議 事 第1号議案 評議員の選任に関する件
第2号議案 令和5年度事業報告に関する件
第3号議案 令和5年度決算に関する件
第4号議案 令和6年度収支予算の補正に関する件

(2) 第28回評議員会

- ア 日 時 令和7年3月24日（月） 午前11時～12時
- イ 会 場 ホテル日航プリンセス京都 「ヴィオラ」
- ウ 出席者 評議員9名、専務理事1名、監事2名
- エ 議 事 第1号議案 令和7年度事業計画に関する件
第2号議案 令和7年度収支予算に関する件
第3号議案 令和6年度収支予算の補正に関する件

令和6年度事業報告には、定款第8条第1項2号に規定する附属明細書は「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、作成しない。
公益財団法人 京都文化交流コンベンションビューロー